



「雪迎え」

校長 藤田 賢一郎

11月の全校朝会では、コロナウイルスに屈せず、大きな行事を成し遂げた生徒に、2学期終盤への期待を、次のように語りかけました。

山形県のある地方では、秋も深まった晴れた日に不思議な現象が起こるそうです。晴れた空を、30cm～1m ぐらいの細い白い糸が飛ぶのです。地元の人たちは、これを「雪迎え」と呼んで、この糸が飛ぶと「そろそろ雪だな」と、冬の準備を急ぐのだそうです。

「なぜ、冬が来る前に糸が飛ぶのだろうか？この糸の正体はなんだろう？」、今から50年以上前地元の小学校が「雪迎え」の不思議な現象を、調べ始めました。「雪迎え」の正体を調べてもらおうと、白い細い糸をうまく捕まえて、地元の東北大学に持っていきました。大学では、高性能の電子顕微鏡で徹底的に調べてくれました。その結果、細い糸は、もっと細い糸がたくさん集まって束になったものであることが分かりました。糸の端の方には、小さなクモの足のようなものがあることも分かりました。この結果から、「雪迎え」の正体は、目に見えないほどの小さなクモではないか」ということになりました。

当時、その小学校に赴任した錦先生が、その「目に見えないほど小さなクモ」を調べたいと思い立ち、6年生と一緒に調べ始めました。5年、10年と、苦労して捕まえた「雪迎え」を顕微鏡で調べましたが、「目に見えないほど小さなクモ」は見つかりませんでした。

ところが、13年目の秋(一緒に調べ始めた6年生はもう25歳。「先生は『雪迎え』をまだ調べているの」と驚いたそうです)のある日、錦先生が帰宅すると、奥様が「捕まえたよ」といって、「雪迎え」を差し出しました。なんとその「雪迎え」には、糸の先に3mm ぐらいのクモがついていたのです。「雪迎え」の正体は「目にみえないほど小さいクモ」ではなく、実は目に見えるクモ、「空飛ぶクモ」だったのです。

その後も、錦先生は、何年も「雪迎え」を調べ続けました。秋の日曜日は一日中外にいて、「雪迎え」を捕まえました。クモを見つけること

はできませんでした。

ところがある年、大発見をします。その日、錦先生は、「雪迎え」が飛んでくるのを待っている間、赤く色付き始めたチガヤ(草)に見とれていました。そのチガヤの先にクモが3匹いました。そのうちの1匹が、お尻から糸を出し始め、その糸が30cm位になると、風に吹かれたのかクモが揺れはじめました。そしてとうとう、糸が1m近くになったとき、クモは糸をパラシュートのようになびかせて空へ飛んで行ったのです。錦先生は「そうだ、『雪迎え』を捕まえるより、『雪迎え』となるクモの飛び立つところを調べればよいのだ」と思いつき、その後20年もの間、飛び立つクモを調べました。

クモが糸を伸ばして空を飛ぶことは、今では凶鑑などにも載っていることですが、この現象が明らかになったのは、「雪迎え」を調べ始めた地元の小学校、調査を引き継いで30年以上も調べ続けた錦先生のおかげです。

それまで世界中の誰も知らなかったことを、調べ上げたなんて素晴らしいですね。スマートフォンや電気自動車になくはならないリチウムイオンバッテリーを創り上げてノーベル賞を受賞した、吉野彰先生も「地道にコツコツとあきらめずに続けることが大切だ」とおっしゃっています。

2学期も終盤を迎えます。みなさんの輝く姿を見ることのできた体育祭や合唱祭など、大きな学校行事が、輝かしい成果を残して終了しました。さあ、これから、不思議に思うことを思い切り調べたり、そのための基礎となる学習にじっくり取り組んだりしてみませんか。みなさんの中から世界中のだれもが知らない不思議の正体を調べ上げる人が出てくるのではないかと楽しみにしていますよ。

実りの秋からじっくりと力を蓄える冬に向かいます。雪国っ子の強みである粘り強さを生かしながら、板中生一人一人がじっくりと力を蓄えるように、教職員一同、指導、支援に努めます。

引き続き、保護者、地域の皆様のご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。

～ 合唱祭 ～ 「届け～僕らが奏でる奇跡の旋律（メロディ）～」

9月になって待ちに待った合唱の学習をはじめることができました。8月の下旬から学級ごとに選曲を行い、9月から本格的な合唱練習を始めました。体育祭と同時進行で準備を進め、学級で取り組む練習機会が少ない中でしたが、例年以上に全校生徒が本気で練習に取り組む様子があり、ここまでよく頑張ったものだと感じさせられました。今年は、コンクール形式はとらずに各学級の発表曲を1曲に絞ることで、合唱表現を追求することにしました。中間発表会では心配される場面もありましたが、各学級とも合唱祭実行委員や指揮者、伴奏者、パートリーダーを中心に楽曲を良くまとめてくれたと思います。

また、今回は合唱祭の締めくくりとして、第一線で活躍され、様々なアンサンブルにもチャレンジされているピアニストの黒岩航紀様をお迎えし、板倉中学校40周年で購入され体育館に常備されているYAMAHAのCF(フルコンサートピアノ)で、ショパンやリストの名曲を演奏していただきました。



○合唱祭を振り返って

合唱祭実行委員長 小林 夏寧

私は今年の合唱祭は、例年と異なる形での開催となるため、実行委員長としてうまく運営をし、全校をまとめていけるか不安でした。しかし、練習期間が短い中でもリーダーや実行委員が中心となり、時間を有効に使い、各学級とも中間発表会の時よりも、より良い合唱となっていました。マウスシールドを付けることで歌いにくい環境で歌うことになりましたが、それぞれの学級らしい表現をし、多くの人が合唱を楽しんでいる様子が見られたので良かったと思います。板倉中学校の合唱祭の伝統をこれからも引き継いでいって欲しいです。

○合唱祭を通して「がんばること」を実感

3年 峰村 美和

頑張ることは本当に大切なことだと改めて実感しました。自分はこんなに声が出るんだということも知らなかったし、自分だけの力では合唱は成り立たなかったのも、みんなの力を合わせることはとても意味があることだと思いました。

合唱祭をとおして成長しました！！

○合唱祭で得たもの

2年 大口 胡音

私は合唱祭で伴奏者を務めました。クラス合唱の曲は、昨年度の曲と比べても楽曲が複雑で、とても難しかったです。合唱練習が始まる直前に指をケガしてしまい、片手でしか練習できない時期もあり、直前までとても不安でした。ですが今までやってきたことを信じて弾き、本番ではこれまでで一番の演奏をすることができました。クラスの合唱は、本番が近づくにつれて指揮者を中心にだんだんと声が出てきて、本番では感動的な合唱をすることができたと思いました。けれども、3年生の合唱を聞いた時、そのあまりの迫力とまとまりに、私たちの合唱とは比べ物にならないくらいの感動を覚えました。来年はその先輩の合唱を越えられるようしっかりと練習し、最高の合唱祭にしたいです。

黒岩航紀さん ピアノコンサート（合唱祭当日）

○学校にあるピアノが輝いて見えた！

3年 高橋 萌恵

とても素晴らしいピアノ演奏でした。学校にあるピアノが輝いて見えました。プロの方の演奏をこんなに近くで聴くことができるとは思いませんでした。ピアノの音を聴いているだけで情景が浮かんできました。私は、特に「革命」の情景を思い浮かべることができました。アレンジもたくさんされていておもしろかったです。機会があれば、また黒岩さんの演奏を聴きたいです。

○楽しみにしていたピアノ演奏！

3年 渡邊 朱柁

私は黒岩さんの演奏をすごく楽しみにしていました。私はピアノを弾いていて、ピアノコンサートに1回は行ってみたいと思っていました。それを板中で聴けるなんて、本当に夢のようでした。

ピアニストは、表現の強弱が激しくてスピード感も私とは比べ物にならないほど、しっかりしていました。

私の中で1番印象に残っているのは、「ラ・カンパネラ」です。私も、一度練習しようとしてチャレンジしたのですが、

「この曲、弾ける人がいるのかしら」と思いました。でも、プロは弾けるのだと感心しました。本当に、ここに書ききれないくらい楽しい時間でした。ありがとうございました。



3年生「芝桜の苗植え」

～花いっぱい運動～

10月28日に、校門脇の花壇に3年生が芝桜の苗を植えました。10月9日に保護者の方の協力を得ながら行った作業を土台に、今回で花壇を整えました。やすらぎ荘で芝桜の管理をされている小林様からは、手順や注意事項を教えてくださいました。



芝桜を植えて

3年 下鳥あさ美

私たち3年生は、総合の時間に校門の横にある花壇に芝桜を植えました。やすらぎ荘の芝桜をゆずっていただき、みんなで丁寧に植えました。植え方は、やすらぎ荘の方から教えていただきました。来年の春にはきれいな花が咲くといいです。卒業しても芝桜の様子を見に、たまに中学校に来たいと思います。やすらぎ荘に植えた芝桜ももちろん見に行きます。とても楽しみにしています。

ありがとう 私の母校②～山部小学校～

3年 今井 啓太

僕の山部小学校での思い出は、毎週木曜日の昼休みの行われていた「みかぶりカップ」です。みかぶりカップは、縦割班に分かれて、縄跳びやリレーなどの運動で競いました。このおかげで、学年を問わずに協力し合い、仲を深められたと思います。山部小学校は、全校の人数が少なかったけれど、そのおかげで、1～6年生の仲が良く、毎日楽しく過ごすことができました。

「2年生平和学習の授業公開」

10月28日に2年2組で社会科のリモート授業が実施されました。授業では、広島や長崎の都市としての役割について、平和都市の観点から、資料を使って考えました。また、ホワイトボードミーティングや、長崎の被爆体験者や広島の高校教師とテレビ電話を通してお話しさせていただき、都市の役割と課題について様々な方向から考えを深める学習を行うことができました。生徒にとって被爆された方のひと言ひと言は、想像を絶する悲惨な情景や、人々の感じた痛みや苦しみを連想できる、深みのあるものでした。生徒の感想を紹介します。



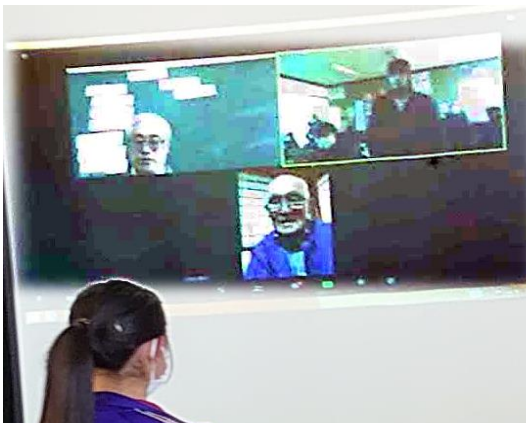
広島や長崎の被爆者の方々へのリモートによる学習を通して学んだ戦争の悲惨さ、平和の尊さ

2年 尾身 悠妃

私がリモート授業で学んだことは、もう二度と戦争を起さずにはいけないということです。中尾正人さんから被爆した当時のことを教えてもらいました。

被爆され、亡くなってしまった方々のご遺体の片づけや、火傷した人のことを、75年たっても忘れないということは、それほど原爆がすごかったのだと思います。

アメリカ側にどんな理由があったとしても、多くの人々を苦しめたことは本当にひどいと思います。平和になるためにはみんなが戦争の恐ろしさを知り、二度と起こさないことが大事だと思います。私は、修学旅行で戦争と平和についてたくさん学んできたいと思います。



輝く栄光

◇県中学生人権作文コンテスト 新潟県教育委員会教育長賞 3年 笠原 和花

◇第66回青少年読書感想文全国コンクール新潟県上越地区予選

佳作 2年 高橋いち花、 佳作 2年 往住 莉玖

◇第30回新潟県中学校駅伝競走大会(11月6日(金)越後丘陵公園特設コース)

男子総合第36位(③古川丈留・③古川聖也・③吉原 歩・③稲垣光希・①下鳥連大・②太田恭佑) ○は学年

12月の予定

2日(水) R3年度生徒会役員選挙立会演説会・投票

3日(木) 1年生出前体験講座(書道)

4日(金) 人権教育強調週間(～10日)

5日(土) 吹奏楽アンサンブルコンテスト

7日(月) 2学期学校評価

8日(火)～11日(金) 期末面談

※当初の予定より1日多い期間にしました

※8・9・11日は部活動実施で16:40下校

10日は部活動なしで14:45下校

15日(火)～18日(金)

※15・16・18日は部活動実施で17:00下校

17日は部活動なしで15:40下校

23日(水) 通学班集会

24日(木) 2学期終業式

※給食なし、部活動なしで12:20下校

25日(金)～1月7日(木) 冬休み

12月～3月まで、下校時刻は17:15となります。車の迎えを待つ生徒は、図書室で待つことができます。その場合は、お子さんを通じて学級担任に申し出てください。